

ゼロエネルギーという考え方

当たり前の話しですが、生活の根幹を支えている石油や石炭などの化石燃料を燃やして生み出すエネルギーは、地球温暖化を進める二酸化炭素を発生します。

地球温暖化問題から出てきた「ゼロエネルギー」という考え方があります。 エネルギーを使わないという意味ではなく、出来るだけ二酸化炭素の発生を抑えながら、どうしても排出してしまう二酸化炭素の量に見合うだけ再生可能エネルギーを生み出して差し引きゼロにしようというもので、「カーボンオフセット」や「カーボンニュートラル」という言葉に近いものです。

■カーボンニュートラルの典型としては、薪ストーブや木質ペレットストーブがあります。 火を焚いて暖をとる際に



木質ペレット固形燃料

二酸化炭素を出すにも関わらず、木として生きてきた過程で酸素を生み出してきたから、その分と相殺されることで環境負荷が無い、差し引きゼロというわけです。

■住環境の分野での差し引きゼロという場合、そのような住宅を「ゼロエネルギーハウス:通称 ZEH(ゼッチ)」と呼ばれ、同じ考え方のビルを「ゼロエネルギービル:通称 ZEB(ゼブ)」などと言います。

一般住宅の場合、まずは出来るだけ消費エネルギーを減らす家づくりということになりますから、窓や壁の断熱性能を吟味して冷暖房などの空調にかかるエネルギーを下げることになると思います。 加えて、同じくらい着目するべきが給湯エネルギーで、実に現在の住宅で消費されるエネルギーの40%近くを占めています。

これらを抑えながら、太陽光発電や太陽熱給湯器などの再生可能エネルギーを生み出す設備を設置することで、差し引きゼロの住宅をつくっていくという国策が ZEH で、条件が満たされる場合、一戸当たり125万円の補助が受けられます。

■条件となる給湯機器には電気・灯油・ガスをエネルギー源とする機器が指定されている中、ガスのバリエーションが多く認定されています。 理由は簡単で、ガスと「何か」



リンナイ/エコワン

を組み合わせる給湯機器が増えている為です。ガス+エコキュートの組合せ(リンナイ/エコワン)、ガス+太陽熱温水器の組合せ(ノーリツ/スカイピ

ア)、ガス+燃料電池発電の組合せ(東芝/エネファーム)などがそうで、ガス給湯器を脇役に配置することでコストを下げることができるようになった機器です。 光熱費試算ソフトもございますので、いつでもお問合せ下さい。

■ZEH 住宅は、テレビCM等で大手ハウスメーカーしか取扱いのないようなイメージですが、地域密着の工務店さんもしっかりお取組みをされておられます。 地域で一番の人と環境に優しいエネルギー供給会社を目指している当社として、信頼ある工務店さんをご紹介させていただきますので、合わせてお問合せ下さい。

■LPガスでも動きます

見た目は普通のプリウスですが、燃料をLPガスでも走るよ



ガス容器は車体下部に格納



うに改造された車です。 LPガスは、ガソリンと比べて、環境負荷が少ないクリーンなエネルギー。1リッター当りの燃費もガソリンより大幅に安くなります。写真に写っているのは迫田自動車の社長、迫田充弘さん。この度、山形まで写真の車を持ち込まれてご自分で改造してこ

られました。 もともとハイブリッド車ですので、LPガスとガソリンをフル充填すれば無給油でも相当走ることでしょう。 今後は自社でもLPガス車への改造やメンテナンスを始められるそうです。 京都府内では2番目となる先駆けです。

(お問合せ) 迫田自動車さん 舞鶴市万願寺166

(電話) 0773-76-3443まで